

作成 2018年1月15日

SDS

1. 製品及び会社情報

製品名 : プラスティコート No. 26
会社名 : 株式会社 大京化学
担当部門 : 業務部
住所 : 東京都大田区本羽田 2-9-20
緊急連絡先 : 電話番号 03-3742-5352
整理番号 : W10
用途 : 一時表面保護剤

2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性 : なし
有害性 : 通常の取り扱いでは危険性は低いと考えられる。
物理化学危険性 : 引火性液体 区分外
GHS 分類 : データ不足のため分類できない。
GHS ラベル要素 : 該当しない
注意喚起語 : なし

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
化学名 : 塗装形可剥性プラスチック(水性エマルジョン)
成分及び含有量 : エチレン酢酸ビニル共重合体エマルジョン 45~50%
水 40~50%
水性着色剤 1%以下
その他添加剤 1%以下
官報公示整理番号 : 登録確認済み
CAS No : 登録確認済み

4. 応急処置

眼に入った場合 : 清浄な水で最低15分間眼を洗浄した後、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。
多量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。
外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医療処置を受ける。
吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静にして医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合 : 水でよく口を洗い、直ぐに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消化剤： 消火には、水、粉末、泡消化剤、ハロゲン化物消化剤が有効である。

特定の消化方法： 火元への燃焼源を断ち、消化剤を使用して消火する。延焼の恐れが無いよう水スプレーで周辺を冷却する。消化作業は風上から行い、呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

作業の際には、長靴、手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。

除去方法： 流路を毛布、土嚢等を用いてせき止め、大量に流れ出た場合にはバキューム等で汲み上げ、少量の場合には、おが屑、土砂、パーライト等を混ぜモルタル状として凝固回収する。多量に河川、湖沼へ流入した場合には、警察署、消防署、都道府縣市町村の公害関連部署・河川管理局・水道局・保健所・農協・漁協等に直ちに連絡をとる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

技術対策：眼・皮膚及び衣服に触れない様に適切な保護具(保護マスク・保護眼鏡・保護手袋等)を着用する。

換気： 取扱いは換気の良い場所で行なう。スプレーミストやペーパーの発生する作業の場合には局所排気設備を設置しあるいは防塵・防毒マスクを着用する。

注意事項： 取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行なう。

保管：

適切な保管条件：凍結、直射日光を避け、5℃以上 40℃以下の屋内に保管する。

皮張り防止のため使用後は密閉して保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：局所排気装置を設ける。取扱いの場所には手洗いや洗顔ができる設備を設ける。

管理濃度： 設定されてない。

許容濃度： 設定されてない。

保護具：

手の保護具：保護手袋を着用する。

目の保護具：保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具：保護衣及び呼吸用保護具を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|---------|----------------------------------|
| 外観 | : 乳白色または青色粘性液体 |
| 溶解度 (水) | : 可溶 |
| 臭い | : 殆どなし |
| PH | : 6.5~7.0 |
| 沸点 | : 約 100°C |
| 引火点 | : なし |
| 自然発火 | : なし |
| 比重 | : 1.1(23°C) |
| 燃焼爆発範囲 | : データなし |
| 蒸気圧 | : (水)2337Pa 20°C |
| 蒸気密度 | : (水)0.017kg/m ³ 20°C |
| 分解温度 | : データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|------------------|
| 安定性 | : 通常の取扱い条件において安定 |
| 危険有害な反応可能性 | : 特になし |

11. 有害性情報

| | |
|------------|---|
| 急性毒性 | : データなし |
| 皮膚腐食性・刺激性 | : 皮膚に付着したままにすると、皮膚炎症を起こす場合もある。 蒸気を吸引すると、頭痛を起こす場合もある。 |
| 目に対する重篤な損傷 | : 目に付着したままにすると、炎症を起こす場合もある。 |
| 呼吸器感作性 | : データなし |
| 発がん性 | : データなし 微量含有する酢酸ビニルモノマーについて、 EU 指令 67/548/EEC Annex I では発がん性は分類されていない。 また当該製品(混合物)中の残存モノマー含有量は微量のため、GHS 分類 ではデータ不足のため「分類できない」とした。 |
| 生殖細胞変異原性 | : データなし |
| 生殖毒性 | : データなし |
| 特定標的臓器 | |
| 全身毒性(単回暴露) | : データなし |
| 特定標的臓器 | |
| 全身毒性(反復暴露) | : データなし |
| 吸引性呼吸器有害性 | : データなし |

12. 環境影響情報

魚毒性 : 河川等に流出した場合はエマルジョン中の樹脂の粘着による呼吸困難のため魚類が死亡する場合がある。

13. 廃棄上の注意

- ・ 廃水は凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する
- ・ 水質汚濁防止法及び廃棄物処理法に従い廃棄する。
- ・ 乾燥したフィルムは廃プラスチックのビニール類として処分する。
- ・ 廃棄は焼却により行なう。
- ・ 地面や排水溝へそのまま流さないこと。

14・【輸送上の注意】

国連分類 : 国連の定義上、危険物に該当しない。

国連番号 : 該当しない

海洋汚染物質 (該当・非該当) : 非該当

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめて転倒、落下、損傷がないように積込み荷崩れの防止を確実に行なう。

15. 主な適用法令

消防法 : 規制なし

労働安全衛生法 : 非該当

毒物・劇物取締法 : 非該当

PRTR 法 : 非該当

16. その他の情報

参考資料 : 日本化学工業協会編 『製品安全データシートの作成指針』
日本エマルジョン工業会編 『合成樹脂エマルジョンの輸送事故対策指針』
原料メーカーMSDSによる

記載事項について

記載事項は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量物理化学的性質、危険有害性に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要で、ご使用者各位の責任において安全な使用条件を設定くださるようお願い致します。

また本書の記載内容は、新しい知見により断りなく変更する場合がありますのでご了承下さい。